

## Q&amp;A

## 嚥下時のつかえ感をきたした食道腫瘍の1例

解答：

1. 食道 pyogenic granuloma (PG)
2. 内視鏡的治療

解説：

上部消化管内視鏡検査では、切歯より25cmの部位に頂部が厚い白苔で覆われた20mm大の亜有茎性の隆起病変を認め、病変の基部には粘膜下腫瘍様の隆起病変が認められる。ヨード染色では白苔に覆われていない部位は淡く染色され、表面の

凹凸所見は認めない (Figure 1)。また胸部造影CTでは、気管分岐部レベルの食道内に血管と同等の増強効果をとまなう20mm大の結節性病変として認められる (Figure 2)。以上より、悪性腫瘍は否定的で、血管に富む pyogenic granuloma (PG) や肉芽腫、血管腫が考えられた。内視鏡検査時の亜有茎性病変からの生検で、正常な重層扁平上皮細胞の下に管腔形成が認められ、血管内皮細胞に陽性となる Factor VIII, CD31 が陽性で、食道 PG と診断した。

PGは皮膚や口腔粘膜に好発する易出血性の良

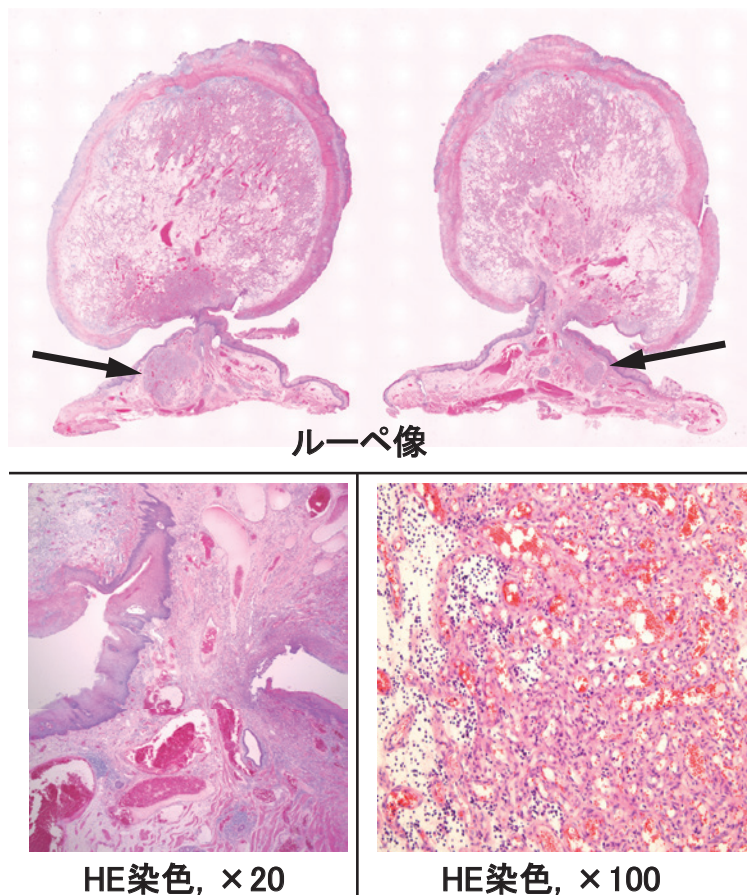


Figure 3. 病理組織学的所見.

